

イノシシ被害対策の理想像

イノシシの被害対策を考える際、「物理的な進入防止柵の設置」をしっかりと行ない、補助的に農地周辺で「個体数管理」を行うのが理想です。この時、最も重要なことは進入防止柵を効果的な形で設置することです。

視覚的遮断

イノシシは、トタンなど壁の向こうに何があるのか臭いで分かっていますが、必ず目で確認をしてから飛び越えると言われていています。そのため、進入防止柵の効果を高めるには耕作地がイノシシから見えなくすることが重要です。

精神的遮断

イノシシは藪から出る時、毎日通っている道であっても必ず立ち止まり、周囲を目で確認するほど警戒心の強い動物です。進入防止柵の外側の草刈りを行い、耕作地を怖い場所であると思わせ、イノシシが接近しにくい環境を作ることも重要です。

上記2条件の継続

イノシシは非常に警戒心が強い動物ですが、非常に賢く、ひとたび安全においしい物が食べられることを学習すると、大胆な行動をとるようになります。どのような対策を施しても被害を受ける耕作地がありますが、こうした場所はイノシシに安全とされている可能性があります。当然、こうした知識は親イノシシからうり坊にも伝わります。こうなってしまうと進入防止柵は意味がありません。そのため、先の2つを可能な限り恒常的に行うことが求められます。

図5はイノシシ被害対策の理想モデルです。①は守るべき耕作地で、②トタン板等を設置し視覚的に遮断します。③電気柵の設置と、④耕作地周辺の草刈りによって精神的に遮断します。⑤耕作地周辺の森林でイノシシを駆除します。被害対策では、被害が激しくなる前の早い段階で、いかに理想の形に近づけるかが重要です。イノシシの被害対策をわかりやすく解説した書籍（「イノシシから田畑を守る（江口祐輔 著、農文協刊 1,850円）」）も出版されていますので、これを参考に安価で効果的な対策を集落で話し合うのもよいのではないのでしょうか。

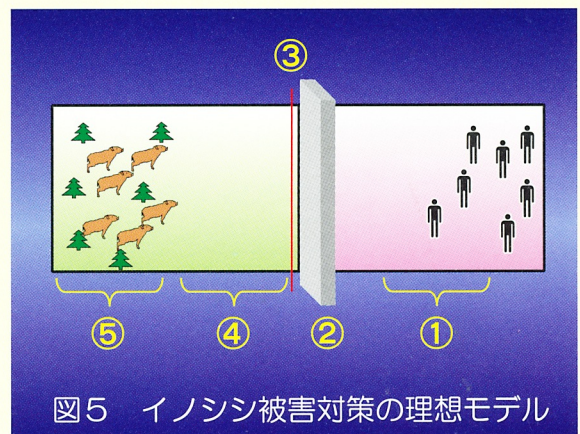


図5 イノシシ被害対策の理想モデル

<参考文献> 江口祐輔（2003）「イノシシから田畑を守る おもしろ生態とかしい防ぎ方」，農文協，152頁。